



ハザードマップの使い方

1 自宅を見つめよう

自宅が土砂災害警戒区域等に入っていないか確認しましょう。

2 避難する場所を確認しましょう

土砂災害からの避難方法を確認しましょう。立ち遅れ避難が必要な場合は、適切な避難先を確認し、大きく印をつけるなど災害時に備えましょう。

3 安全な避難経路を決めよう

災害時は遅れなく、スムーズに進むための避難経路を決めましょう。

4 実際に避難経路を歩いてみましょう

家族やご近所の方と一緒に歩いて、危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。

5 家族で災害時の対応を話し合ひましょう

洪水や大雨・土砂災害の際の行動について、家族と話し合ひ、災害時の約束を決めましょう。

6 学校やご近所で考えよう

学校やご近所へ、災害や避難について話し合ひ、情報を共有しましょう。高齢者など、避難に支援が必要と思われる方についても、みんなで考えることを、避難の際に協力しましょう。

非常持出品チェックリスト

非常用持ち出し品の例(すぐに持ち出したもの)

スマートフォン(携帯電話)	モバイルバッテリー(充電機・電池)	貴重品(現金・身分証明書)	非常食	マスク
救急セット	着替え・下着	懐中電灯	水	アルコール消毒液
歯磨きセット	ウェットティッシュ	タオル	持病薬・処方箋	せっけん
剃り刃	洗剤(ドラッグストアなど)	ビニール袋	軍手	体温計

非常備蓄品

災害時には、ライフライン機能の低下など都市機能の低下が考えられます。このため、各家庭で最低7日間、自宅で過ごせる用意をおこなってください。

飲料水 ・飲料水は1人1日3リットル必要です。
・ペットボトルなどで、家族全員の分を用意しておきましょう。

食料 ・お米や乾菜、缶詰など、日持ちのするものをなるべく多く用意しておきましょう。
・普段の生活の中で十分に買い置きし、賞味期限が来る前に消費しながら定期的に買い足すことで、無理なく備蓄が可能です。(ノーロープストック)

その他 ・カセットコンロ(ガスボンベは別途)、簡易トイレ(汚物処理袋)などを用意しておきましょう。

国土交通省「川の防災情報」

大雨などの際に、雨量や河川の水位の状況などを、リアルタイムで確認できます。

あなたの街の防災情報(気象庁)

気象庁が発行している警報・注意報やキキル(危険度分布)などの防災気象情報を市町村ごとに確認できます。

津州市web版防災マップ

津水想定区域や土砂災害警戒区域等をインターネット上で確認できます。

防災行政無線テレホンガイド

防災行政無線放送した内容を、電話機で自動応答により確認することができます。*番号を非通知に設定している電話からはご利用できません。

フリーダイヤル 0120-49-4133

防災情報収集欄

津水想定区域や土砂災害警戒区域、避難指示の発令の有無にかかわらず、危険を感じた場合には速く避難行動を開始してください。

土砂災害について

土砂災害は、「がけ崩れ」「土流」「地すべり」の3つに分類されます。津市では、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)、浸流やたけ地からの土砂流による土砂災害の危険性が顕著です。土砂災害が発生すると、人命に関わる重大な被害をもたらします。土砂災害は突然発生します。

土砂災害の種類と前兆現象

大雨や長雨、地震などの影響で、急ながけ地や山の斜面が突然崩れ落ちてきます。

がけ崩れ

大雨や長雨、地震などの影響で、急ながけ地や山の斜面が突然崩れ落ちてきます。

土砂流

浸流の沢筋や谷筋から水を含んだ土砂や巨大な石が一気に流れてきます。

前兆現象

- がけに浮石や割れ目が目が多い。
- 斜面から水が湧き出ている。
- 斜面から落石がある。
- 斜面に割れ目ができる。
- 落石や湧き水がある。
- 斜面に割れ目ができている。
- 雨が降っているのに川の水位が下がる。

土砂災害防止法とは

「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(土砂災害防止法)」は、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域を明らかにし、急傾斜地の崩壊、普通避難体制を整備を図るとともに、著しい土砂災害が発生するおそれのある区域については、住宅などの建築制限といった対策を推進しています。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

急傾斜地の崩壊等が発生した場合、住民等の生命又は身体に危険が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、普通避難体制の整備が行われます。

土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)の指定基準

- 傾斜度が30度以上で高さ5メートル以上の区域
- 急傾斜地の上部から水平距離が10メートル以内の区域
- 急傾斜地の下部から急傾斜地の高さの2倍(5メートルを超える場合は5メートル)以内の区域

土砂災害警戒区域(土石流)の指定基準

土砂災害警戒区域(土石流)の指定基準
土砂災害のおそれのある浸流において、前頭部から下流で勾配が2度以上の区域

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

急傾斜地の崩壊等が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

がけの災害対策

自身の所有する宅地で災害が生じないように維持保全することは所有者等の義務になります。そのためには普段からがけの状態をチェックし、適切に対策を実施することが大切です。

早期に対策を講じておくことで災害を事前に抑制することができます。下の図を参考に、自身の所有する宅地についてチェックしてください。

風水害に備えて

近年、日本各地で毎年のように台風や集中豪雨によって浸水や土砂災害などの被害が発生しています。しかし、地震と違い、風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険がせまる前に早めに行動しましょう。

雨風が強まってきたら、まずテレビやラジオ、インターネットで発表される気象庁からの警報、注意報や、市からの避難に関する情報に注意しましょう。不要不急の外出は控え、危険な場所には近づかないようにしましょう。

風が強いとき
屋内では 風正や飛来物で窓ガラスが割れ、破片が吹き飛ばされる場合があります。破片が目に刺さる可能性があります。外に出る際は、雨風が強い時は、カーテンを閉めておきましょう。
車の運転には 暴風で視界が遮られ、道路が冠水している場合があります。あらかじめ、目的地までのルートを確認しておきましょう。
路上では 看板が倒れたり、街灯が倒れたりする場合があります。歩行者は、急な嵐や暴風雨の中を歩かないようにしましょう。

大雨のとき
屋内では 床下、壁土の危険があります。雨漏りや家具が倒れる可能性があります。雨漏りがある場合は、家具を移動させたり、床下を排水したりして、雨漏りを止めておきましょう。
車の運転には 暴風で視界が遮られ、道路が冠水している場合があります。あらかじめ、目的地までのルートを確認しておきましょう。
河原では 急傾斜地や土砂災害の危険があります。高い場所に避難し、土砂災害の発生を待つことなく、安全な場所へ避難してください。

土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)の指定基準

急傾斜地の崩壊等が発生した場合、住民等の生命又は身体に危険が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、普通避難体制の整備が行われます。

土砂災害警戒区域(土石流)の指定基準

土砂災害警戒区域(土石流)の指定基準
土砂災害のおそれのある浸流において、前頭部から下流で勾配が2度以上の区域

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

急傾斜地の崩壊等が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

土砂災害の危険が迫ったら

気象情報や避難に関する情報を確認しよう!

災害の危険性が高まると、「土砂災害警戒区域」に「避難情報」を発令します!

避難情報等

警報レベル	みなさん取るべき行動	気象や避難の情報
-------	------------	----------

警報レベル5相当情報

大雨特別警報(土砂災害)

警報レベル4相当情報

土砂災害警戒情報、等

警報レベル3相当情報

大雨警報(土砂災害)等

これは、住民が自主的に避難行動をとるための参考となる情報です。

警報レベル2相当情報

大雨注意報(気象庁が発令)

警報レベル1相当情報

早期注意情報(気象庁が発令)

避難時の注意事項

災害から命を守る最も確実な方法は「災害にあわないようにする」すなわち「早めの避難」です。災害発生のおそれが高まった場合、市では避難指示などの情報が発令し、防災行政無線や津市メール配信サービスなどでお知らせします。しかし、避難指示などの情報は、すべての世帯において必ずしも最適な避難のタイミングであるとは限りません。各世帯における家族構成、自宅建物の高さや丈夫さ、周辺の状況、そのときの降雨や浸水状況などから判断して、危険を感じた場合は、避難指示などの情報が出されるよりも早く自主的な避難行動をとることが重要です。

ポイント

夜間の避難が予想される場合などは、早め早めの行動を取らしましょう!

避難に対する基本的な考え方

避難は自ら判断を

災害が起きたら、一人ひとりが自ら判断し、適切な行動をとらなければなりません。

命を守る最低限の行動を

危険な状況なかで避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動だけでなく、屋外への避難が危険だと判断したら自宅や近隣の頑丈な建物の2階へ垂直避難し、救助を待つことも検討してください。その場合、がけや斜面の反対側の部屋に避難してください。被害を免れる確率が高くなります。

命を守る最低限の行動を

危険な状況なかで避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動だけでなく、屋外への避難が危険だと判断したら自宅や近隣の頑丈な建物の2階へ垂直避難し、救助を待つことも検討してください。その場合、がけや斜面の反対側の部屋に避難してください。被害を免れる確率が高くなります。

避難時の注意事項

災害時に避難するとき、普段通り道でも足元が見えないことが多いので慎重に歩きましょう。また、頭上からの落下物や飛来物にも十分注意しましょう。いざというときに慌てないためにも、どこへ、どの道を通って避難するのかを日頃から家族やご近所で話し合っておきましょう。

火の始末、戸締り

台所や暖房器具の火を消し、避難する前にブレーカーを切り、ガスの元栓を締めます。

家族にメモを残す

避難するときには、家族に連絡先、安否情報などのメモを残しましょう。

家に引き返さない

土砂に巻き込まれる可能性があるため、忘れ物を取り、家に戻らないようにしましょう。

避難時は助け合おう

自力で避難することが困難な方は、早めの避難が必要です。お年寄りや子供が安全に避難できるように協力しましょう。

慌てずに行動

避難路の安全を確認しながら、落ち着いて行動しましょう。また、市が指定する避難場所へは、開通していない場合があります。避難所へ自主避難を行う場合には、事前に市のホームページ等で開設状況を確認するなど、急を要する場合には、近隣の避難所へ避難することも検討してください。

避難行動フロー

台風、豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。

平時に確認

「自分の命は自分が守る」意識を持ち、自宅の災害リスクとどのべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがたのとき避難行動は? 必ず取り組みましょう

避難行動判定フローのフローチャートは、自宅の危険度や状況に応じて、避難行動の推奨レベルを示しています。

マイ・タイムライン

「マイ・タイムライン」は、台風や大雨等の風水害に対する事前の準備と行動を、あらかじめ記録しておく予定表です。住んでいる場所や家族構成によって、いざという時に取るべき行動やタイムラインは異なります。家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」「誰が」「何を」するのかあらかじめ決めておくことで、災害の危険が迫ってきた時に落ち着いて避難行動をとることができます。

マイ・タイムライン 作成のポイント

ポイント1 気象庁が発令する防災気象情報と津市が発令する避難情報を知っておく
気象情報「避難情報」を知っておきましょう。

ポイント2 ハザードマップで確認する
津市が発令する避難情報を知っておく。避難情報「避難情報」を知っておきましょう。

ポイント3 最適な避難先を確認する
避難先や避難方法についていまだから家族で話し合っておきましょう。

ポイント4 避難行動を開始する目安を検討する
津市が発令する避難情報を知っておく。避難情報「避難情報」を知っておきましょう。

ポイント5 いつ、誰が、何を、誰が? 考えておく
家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」「誰が」「何を」のかを考えておく。

マイ・タイムライン 記入例

「いつ」「誰が」「何を」を記入してください

警報レベル	1	2	3	4	5
避難情報	早期注意情報	大雨注意報 洪水注意報	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保

わたが家の「マイ・タイムライン」

警報レベルを「1」から「5」までの5段階に記入してください。

わたが家の「マイ・タイムライン」

「いつ」「誰が」「何を」を時間ごとに整理しましょう!

警報レベル	1	2	3	4	5
避難情報	早期注意情報	大雨注意報 洪水注意報	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保

避難行動判定フローの記入例

土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)

番号	住所	危険度	特別警戒区域
1	久保山1-1-1179	有り	
2	久保山2-1-1180	有り	
3	小野	有り	
4	大野	有り	
5	久保山3-1-1200	有り	
6	久保山1-1-150007	有り	
7	久保山2-1-150008	有り	
8	久保山1-1-2050	有り	
9	久保山1-1-2050	有り	
10	久保山1-1-2050	有り	
11	石巻	有り	
12	山手	有り	
13	大野	有り	
14	山手	有り	
15	山手	有り	
16	大野	有り	
17	大野	有り	
18	大野	有り	
19	大野	有り	
20	大野	有り	
21	大野	有り	
22	大野	有り	
23	大野	有り	
24	大野	有り	
25	大野	有り	
26	大野	有り	
27	大野	有り	
28	大野	有り	
29	大野	有り	
30	大野	有り	
31	大野	有り	
32	大野	有り	
33	大野	有り	
34	大野	有り	
35	大野	有り	
36	大野	有り	
37	大野	有り	
38	大野	有り	
39	大野	有り	
40	大野	有り	
41	大野	有り	
42	大野	有り	
43	大野	有り	
44	大野	有り	
45	大野	有り	
46	大野	有り	
47	大野	有り	
48	大野	有り	
49	大野	有り	
50	大野	有り	
51	大野	有り	
52	大野	有り	
53	大野	有り	
54	大野	有り	
55	大野	有り	
56	大野	有り	
57	大野	有り	
58	大野	有り	
59	大野	有り	
60	大野	有り	

土砂災害警戒区域(土石流)

番号	住所	危険度	特別警戒区域
1	久保山	有り	
2	久保山	有り	
3	久保山	有り	
4	久保山	有り	
5	久保山	有り	
6	久保山	有り	
7	久保山	有り	
8	久保山	有り	
9	久保山	有り	
10	久保山	有り	
11	久保山	有り	
12	久保山	有り	
13	久保山	有り	
14	久保山	有り	
15	久保山	有り	